

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成23年8月25日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471502686		
法人名	株式会社 リブネット		
事業所名	グループホーム かざぐるま		
所在地	福山市御幸町上岩成609-1 (電話) 084-961-1200		
自己評価作成日	平成23年8月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3471502686&SCD=320
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成23年9月13日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>入居者さんのしたい事を出来るだけ早く実行できるように、できないと思うことでもどうすればできるのかを考え実現できるようにすることに力を入れています。また看取りの件数も多く、その方が最後までその人らしく最期が迎えられるように支援しています。1年に1冊どういう取り組みをしてきたかの反省などを書いた冊子を作成し、入居者さんご家族への1年間の取り組みの周知と共にスタッフ自身の1年間の振り返りにも生かしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>当事業所は、3ユニット（定員27名）である。ホーム周辺は、幹線道路沿いにあり地域との交流が難しい状況であるが、運営推進会議や入居者と一緒に溝掃除や路上のゴミ拾いを行ったり、挨拶を交わしたりなど、自然な付き合いが出来るよう努力されている。町内の祭りや行事にも参加し、入居者個々の要望に対しても即実行が出来るよう柔軟な対応をされている。ユニットを超えた同好会活動など、3ユニット間での交流を密に行い、個々の要望への対応や外出を通じて地域交流が図れるよう機会づくりに努めている。入居者と職員との双方のコミュニケーションを密に行い、日々の入居者支援についても常に振り返りを行い、日々見直しをされている。職員全員がホーム全体を良くしようという姿勢のなか、穏やかな対応に心掛け、入居者の表情から、家庭的で心休まり安心して生活されている様子が伺えた。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	家庭的な雰囲気の中で仲間と一緒に思いやりとやさしさで笑顔を大切にしながら生活を目指すという理念に基づいて笑顔で生活できるように取り組んでいる。	理念を念頭に置き、各ユニット共に理念の実現に向けて取り組んでいる。常に意識づけするために、各ユニット毎に毎日の目標を掲げ、また常に支援の振り返りを実施しチーム一丸となり、入居者支援に心掛けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所のスーパーへ毎日食材を買いに行っている。理美容院も利用している。	入居者と一緒に溝掃除やゴミを拾ったり出来るところから実施している。近隣のお店へ手作りカレンダーを配布したり自然な付き合いが出来るよう努力されている。毎日のスーパーなどへの買い物を通じて、社会の構成員の一人として、人との関わりをもつよう努力されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣の店に入居者さんが製作したカレンダーを持っていき飾ってもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度開催している。	公民館を活用し、2ヶ月に1回開催している。近隣のグループホームも参加され、情報交換や連携を図っている。参加者との随時連携を行い、地域との関わりをもち、その中で地域情報やアドバイスを頂き、入居者の支援及び運営に繋げている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日ごろの不明な点などは市担当者へ相談し連携を取っている。	地区の包括支援センターの方が参加されている。市担当者とは、随時連絡や直接出向くなどを行い、協力関係を築くよう取り組み、サービスの質の向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>日常のケアの中でリーダーを中心にミーティング、勉強会等の中で周知し拘束をしないケアを徹底している。</p>	<p>ミーティングや勉強会などで全職員周知徹底している。常に職員は、身体拘束をしないケアを意識し、その人らしく生活して頂くよう、自然な見守りのケアを心掛けている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>日常のケアの中でリーダーを中心にミーティング、勉強会等の中で周知し虐待に対する意識を高め、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者が学んでおり、必要な方には利用してもらっている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>本人の希望、家族の希望を、事業所でできる事できない事を契約時に限らず必要な時に家族、本人と事業所が確認しあい納得した上で利用してもらっている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年3回家族会を開催している。その中で家族へのアンケートを実践したり、話し合いの場を設けている。面会時はここにスタッフから声をかけたり、サービス担当者会議などにも少しでも多くの家族の要望を知れるようにしている。</p>	<p>毎月ケア担当者からホームでの生活状況を送付している。年3回家族会の開催やその中で家族アンケートを実施している。サービス担当者会議に家族の方も参加して頂き、家族からの意見や要望などを入居者支援及び運営に反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月2回のリーダー会議、各ユニットミーティング、毎朝のミーティングの中で意見や提案など話し合う場を作っている。	法人内の勉強会を開催し、職員間で顔を合わせる機会を作っている。各ミーティングの実施や話し合いの場で管理者の意見を聞く機会を設け、職員全員がチームアプローチのもと、入居者支援を心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格取得や実績が給与に反映されるような仕組みになっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スタッフの経験に応じた内容の外部研修への参加を行なっている。法人内の勉強会を開催し、勉強する機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者の祭りやコンサートに参加するなど少しずつではあるが交流している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の事前訪問などで、現場スタッフも安心して要望が言えるような関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>要望に沿ったサービスを提供できるように家族の思い、心配なことなどは話してもらえようような関係作りをしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人、家族の要望と事業所でできる事できない事をすり合わせ、要望にこたえられない場合には要望に沿えるようなサービスを紹介している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>入居者さん主体の生活を実践していく為にスタッフは入居者さんの要望をかなえるために存在していることを意識し、入居者さんと暮らしを共にする関係作りをしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>事業所で何でもしてしまうのではなく、家族が参加できる事には参加してもらい本人と家族の関係を最優先にし家族では補いきれない部分を事業所がサポートするように努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>自宅の地域の夏祭りやお花見など地域の行事に参加したり、帰宅したい時には帰宅できるようにし、家族の都合がつけば宿泊できるようにしている。又事業所に家族が宿泊されたり、電話などを使い関係が途切れないように支援している。</p>	<p>入居前に出来る限り情報収集を行っている。希望があれば、即実行するよう努力されている。請求を窓口払いにし、必ず月1回は家族と顔を合わせる関係づくりに努めている。個別対応について家族と十分協議を行い、以前との関係が途切れないように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う方同士は好きにしてもらっている。単独で行動が多い方には不満が出ない程度に他の方と交流できるようにスタッフが仲立ちしたりし、入居者同士楽しみながら生活できるようにユニットに関係なく交流できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	同業者の祭りやコンサートに参加するなど少しずつではあるが交流している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの要望を把握し、どうしたら実現できるかをいつも考え実行している。	個々の生活歴や入居後の日々の生活で関わるなか、要望を把握されている。その要望に対して出来ないではなく、どうしたら出来るかを常に考え実行に移している。役割や楽しみごとを見つけ出し、入居者に寄り添い、役割をもって頂くことに心掛けた支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日常での本人との会話、面会時の家族との会話や、サービス担当者会議で情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ライフチャート、申し送り等で全スタッフが情報を共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ミーティング時に全員で行うカンファレンス以外にも申し送りノートを使用したり、少しの時間を利用して個々のスタッフの間でも意見交換などを少しでも多くの情報を反映できるように取り組んでいる。</p>	<p>カンファレンスの実施や半年に1回モニタリングを実施している。入居時に家族援助計画を基に、家族支援として出来る所を把握したり、面会時に家族の意向や希望を把握したりしている。必ず、家族が参加できるように、状況に応じて、自宅でサービス担当者会議を開き、意見交換や情報の共有を図る取り組みをされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ライフチャートを利用し、こまめな記録と勤務交代時の申し送り等で情報を共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その都度、本人、家族、事業所で話し合い、可能な限り実現できるように取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の祭りや催し物等の行事への参加している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>何かあればいつでも相談受診できる体制になっている。事業所の協力病院以外にも本人、家族が希望するかかりつけ医を利用してもらっている。</p>	<p>利用者及び家族の意向に沿ってかかりつけ医を決定している。かかりつけ医の受診に職員が同行したり、往診ノートを活用し、情報共有を図っている。受診後は、家族へ電話連絡し状況報告している。協力医療機関やかかりつけ医との連携を図り、適切な医療を受けられるよう全面的に支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力病院の看護師にいつでも相談できる体制が整っており、気になること、些細なことでも相談に乗ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院との連携を密にし少しでも早期に退院出来るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族、医師、事業所で話をする機会を作り、事業所でできる事と本人、家族の要望をすり合わせながら最期まで生活できるように援助している。	利用者個々の状況を把握するなか、状況に応じて主治医との面談を行っている。ホームとして最大限可能な支援に向け、家族と十分に話し合いをもち、医療機関との連携を行い、職員全員で対応方針を共有し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルを準備している。定期的にスタッフ全員救急救命講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の職員指導の元の避難訓練を定期的に行っている。災害時の地域との協力体制は築けていない。	消防署の協力を得て、防災訓練を実施している。また運営推進会議に消防署職員の方も参加をされ、関わりを密に行っている。地域との協力体制は築けていない部分も見受けられるが、ホームとして働きかける努力はされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	各ミーティング、社内研修などを利用し入居者の尊厳を尊重するケアの重要性を話し合い実行している。	個々の状況を把握し、出来るところはお手伝いをお願いしている。個人情報やプライバシーが保てるように、内部研修を通じて、利用者一人ひとりの人権・権利を意識しながら、個々に合った支援及び声掛けには十分気をつけた対応をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で入居者さんの要望を少しでも多くくみ取るように努め、本人が思いを言える環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	スタッフは入居者さんの希望を知ったら即実行できるか考えるように、という意識付けの元で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者さんと相談してその時着る服を選ぶようにしている。理美容院に行きたい時に行けるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立を一緒に決めてから食材の買い出しへ行っている。調理時には各入居者さんの出来るところを担当してもらい入居者さん、スタッフが一緒にすることを大事にしている。	併設のデイサービス厨房職員との意見交換を行い、日々の関わりのなかから、要望食や季節食を提供している。毎日買い物へ行き、食材を調達し、メニューを入居者と一緒に考えている。入居者も個々の能力に応じて、配膳や片付けをして頂き、職員も同じ時間に同じ食事を食べるよう努力されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	一日の食事量、水分量は記録を見て全スタッフが把握できるようにしてある。個々の状態に応じて食べれない時には食べれる物を少しずつでも食べてもらえるような援助をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後に声掛けを行い、介助が必要な方には介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し，一人一人に合わせた援助をしている。	個々の排泄パターンを把握し声掛けや見守りを行い、極力トイレ誘導を行っている。毎日の食事量や水分摂取量を確認し、水分摂取や腹部マッサージ、運動を行い、便秘予防に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の間隔を把握し個々の状態により医師の指導の元、下剤や浣腸の使用を行っている。予防としては水分摂取量に気をつけたり、腹部マッサージ、運蔵などを取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者さんの希望に合わせた入浴したい日に入浴してもらっている。極力好きな時間に入浴できるように援助しているが、対応の難しい時間帯もある。	個々人の生活習慣もあるものの、極力夕方の方の入浴支援に心掛けている。一人ひとりの状態を把握するなか、体調に合わせた入浴支援を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	就寝時間、起床時間に特に決まり はなく、入居者さんのリズムで 生活している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。	処方箋を各入居者さんのカルテ に綴っており、いつでもスタッ フが確認できるようにしてあ る。往診受信時に聞いた注意 事項に関しては往診ノートに 記入するようになっており、 全スタッフが薬についての 確認ができる体制になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、 嗜好品、楽しみごと、気分 転換等の支援をしている。	一人一人の好みに合わせ、買 い物、外食、映画、温泉等の 趣味活動ができるようにして いる。また同好会を作り好き な同好会に参加してもらって いる。日常の家事など手伝だ ってもらった場合には、スタッ フが感謝の気持ちを伝え、 張り合いが持てるようにして いる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるように支 援している。	一人一人の希望、要望を知 ったら即実行するようにスタッ フに意識付けをしている。家 族、スタッフとの外食、お墓参 り等やりたいことを実現する ように努めている。	家族の協力を得ながら、入 居者の希望場所への外出支 援や本人の要望を把握し、 要望に対して即実行に移す よう、柔軟な対応に心掛け ている。外出を通じて地域 の皆様との交流が図れる よう機会づくりに努めて いる。	
50		○お金の所持や使うことの 支援 職員は、本人がお金を持つ ことの大切さを理解しており、 一人ひとりの希望や力に応 じて、お金を所持したり使 えるように支援している。	各個人での金銭管理はして おらず、ユニットの金庫にて 管理しているが、使いたい ときにいつでも使えるよう にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	特に制限は授けていない。好きな時に好きなようにされている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花を飾ったり、季節ごとに壁面構成を取り替えながら季節感をあじわせるようにしている。	季節ごとの飾り付けや花を飾ったりしている。ホーム内もテーブルやソファが適所に配置され、職員も穏やかな対応に心掛け、一人ひとりが心休まり安心して生活されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングの中の様々な場所に、テーブルやソファがあり、好きな時に好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具などを持ち込んでもらっている。家族の写真や自分で作った作品などを飾っている。	以前使用していた馴染みのある物品などを持ち込まれている。本人や家族と相談しながら居心地良く生活できるよう環境調整に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各入居者さんの個室、お風呂、トイレなどわかりやすいようにしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームかざぐるま

作成日 平成 23年 10月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	14	交流する機会が限定的である。	交流を通じたサービスの質の向上	活発な意見交換をする為に交流を増やす。 事例検討会等	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。